

哲学者の①梅原猛（ ）さんは少年時代、部屋に閉じこもり、一人遊びに熱中していた。将棋盤と駒を使った「野球将棋」である。雑誌でやり方を知り、早慶戦と②ショウ（ ）しスコアまでつけた。他のスポーツでも将棋遊びを考案し、盤上での水泳や陸上競技に③ポットウ（ ）した▼狂気にも似た空想の世界。そこから④ダツキヤク（ ）したのは大学に入ってからだったと梅原さんが著書で述べている。「現実世界以外の別の世界を、私はなぜ必要としたのか。この空想世界への⑤耽溺（ ）は、現在の学問への耽溺と、どこかでつながってはいはしないか」▼梅原さんが93歳で亡くなった。哲学から日本古代、さらには仏教の研究へと進んだ道のりは⑥柀（ ）やジャンルとは⑦ムエン（ ）だった。(1)通説や常識に逆らう学説を次々と世に問うた▼法隆寺は聖徳太子の怨霊を鎮めるために建てられたと主張し、万葉歌人の柿本人麻呂は刑死したとの仮説を投げかけた。専門家から批判も浴びたが、梅原古代学が全国の読者を⑧ネツキョウ（ ）させたのは間違いない。我が高校時代も、その⑨凄（ ）さを熱く語る級友がいた▼東日本大震災にあたっては、その本質を「文明災」だと⑩シテキ（ ）した。先進各国が原発をエネルギーとするのだから、現代文明そのものを再考する必要があるのだとスケールの大きな発想を常にする人であった▼88歳で出版した本の題名は「人類哲学序説」である。西洋哲学をさらに研究して、これから本論を書くから「序説」なのだ。知識人としての幅と熱量に比べ、その人生の時間はおそらく短すぎた。

〔2019年1月15日「天声人語」〕

問一 ①～⑩のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを書き入れなさい。

問二 第一段落のエピソードは、なぜ紹介されているのか。次の中からその理由として最も適当なものを選び、記号を○で囲もう。

- ア 梅原氏の学問が、狂気にも似た空想世界のみを根拠とすることを示すため。
 イ 梅原氏の学問には、空想の世界への耽溺が関わっていることを示すため。
 ウ 梅原氏の学問が、空想の世界への耽溺そのものであることを示すため。

問三 傍線部(1)の具体例を文中から、(A)23字と(B)15字で抜き出そう。

(A) 23字 ()

(B) 15字 ()

問四 問三の(A)(B)を紹介した本の題名を選択肢から選び、書き入れよう。

(A) ()

(B) ()

〔選択肢〕『水底の歌』 『地獄の思想』 『隠された十字架』 『歓喜する円空』

問五 次は『隠された十字架』(新潮文庫)「はじめに」の冒頭部分である。()内に、次の言葉のいずれかを書き入れよう。〔・理性 ・常識〕

・この本を読むにさいして、読者はたった一つのことを要求されるのである。それは、物事を() ()ではなく、() ()でもって判断することである。() ()の眼でこの本を見たら、この本はすばらしき寺、法隆寺と、すばらしき人、聖徳太子に対する最大の冒瀆に見えるであろう。日本人が、千何百年もの間、信じ続けてきた法隆寺と太子像が、この本によって完全に崩壊する。